

平成26年度第4回鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会発達支援部会 会議録（概要）

日 時 平成27年2月2日（月）午後4時から午後5時まで
場 所 総合福祉保健センター4階 研修室
出席者 吉田浩滋副部長、梅田和男部会員、丹野隆昭部会員、村木正昭部会員、
森田通香部会員、須鎌ひろみ部会員、
佐藤佳子部会員（こども課こども発達センター分室所長補佐）
欠席者 星山伸夫部会員、菅谷幸乃部会員、
野中幹子部会員（学校教育課指導室副主幹）、野口明日可部会員
事務局 山田障がい福祉課長、藤嶋係長、橋本主任主事
区 分 公開
傍聴者 なし
配付資料 式次第
B.まとめ

- 1 挨拶
- 2 今年度の総括
- 3 来年度に向けて
- 4 その他

会議録詳細については別紙1のとおり
－以上－

第 4 回発達支援部会会議録

【挨拶】

- ・副部長が遅れて参りますので、代わりに事務局からごあいさついたします。今年一年に及ぶ発達支援部会会議開催にあたりまして、ご協力ありがとうございました。この会議が今年度最後の会議となりますので宜しくお願いいたします。

【事務局からの報告】

- ・平成 24 年度から 3 年間、学校教育課とこども課（こども発達センター）で使用している内容が類似するサポートファイルを、利用者の利便性を考え、統合する事を目的として議論を重ねてきたが、平成 26 年 12 月 16 日に行われた鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会で承認された。現在、平成 27 年 4 月 1 日から利用できるよう決裁中である旨報告した。

【各委員からのご意見】

《相談先・配付先に関する意見》

- ・保護者が幼少時代から記録を取っていて、各機関へ提示している方にはサポートファイルの使用は、大変有意義だと思うが、一番使って欲しい人（保護者が子どもの問題に向き合わない人）にこのサポートファイルをどう紹介（利用を促す）していくかが問題だと思う。
- ・保護者が子どもの問題に向き合おうとしない、意識の低い家庭があり、民生委員などが地域の情報として、対象になり得る方の情報を行政に教えていただけたらと思う。
- ・記入することが苦手な保護者は、記入方法を教えてくれる場所を理解していないと思う。
- ・サポートファイルは、こども発達センター分室、学校教育課、病院等で配付予定であり、そこで説明できることが望ましいので調整が必要だと思う。
- ・先週、こども発達センターから、保育園の園長、児童センターの所長、コミュニティセンターの館長に対し、サポートファイルの中身、使い方を示したリーフレットの配付を依頼した。幼稚園にも周知していきたいと考えている。各施設長だけではなく、現場の方々にも説明する機会があれば、周知漏れや現場の声が聞けて良いと思う。
- ・前年の発達支援部会担当の学校教育課の先生が、現在、市内の学校に勤務しているので、そこから広めていただけたらと思う。
- ・本市管轄の中核地域生活支援センターにもこのファイルを渡しておく活用が広まると思う。（障害年金を申請する際の支援に関わることもあるため。）

《使用に関する意見》

- ・現状では、施設入所の際に保護者に過去受けていたサービスを聞いても、あまり覚えていないケースが多く、情報を引き継ぐという点でサポートファイルがあると助かる。
- ・小学校に入学するまでは、何らかの問題を持ちながらもうまく過ごしていた児童も、小学校でうまく適応できない等の問題が生じることがある。このような時に、家庭支援も含めて、サポートファイルを使用していれば、どこまでの支援を行っていたか等、記録があるので助かると思う。
- ・学校現場の話になるが、学習障がい等があり、中学校に入学した際に小学校との連携が取れておらず情報が伝わっていない事例や、進級する際にも、前担任から引き継いでい

ないケースが見受けられるが、このサポートファイルがあれば保護者から現在の担任へ情報を提供することに活用できると思う。

- ・サポートファイルがあると、大学入試の際、時間を長く取ってもらえる、個室で受験できる、出口の近くの席にしてもらえる等の配慮をしてくれる大学がある。
- ・医療機関において、サポートファイルは紹介状の代わりにはならないが、補足資料にはなり得ると思う。
- ・計画相談を作成する際に、面接と共にサポートファイルがあると大変記入がしやすいと思う。
- ・サポートファイルの周知は、根気がいる作業だと思う。実際使用した方からは、母子手帳のサイズにして欲しい、書く欄が多すぎる等、いろいろな色々意見をいただいた。
- ・ハローワークではあまりサポートファイルは見かけない。

《情報管理に関する意見》

- ・病院や役所等、文書には保存期間があり、何らかの手続きをする際、記録の問合せがあっても既に廃棄していることが多い。このような場合、サポートファイルがあると、記録が自身の手元にあるので後々困らないと思う。
- ・病院初診時に、生育歴や既往歴等の書類作成を依頼されても、過去のことは分らないので、サポートファイルがあると、幼少期からの記録が記載されているため、書類作成時に助かる。

《他市の状況》

- ・各市、名称は違うがサポートファイルを作成しているところも多いが、周知方法が今後の課題となっている。

《その他意見》

- ・こども発達センターで予算を確保し、ファイル（厚さは2.8cm）を購入予定である。
- ・鎌ヶ谷市は、ボランティア登録者数が1,000人以上いる。しかし、その方々を生かす業務が4つぐらいしか無く、人手が有り余っていて非常に勿体ないと思う。この方々を障がい福祉に限らず活かすことができれば良いと思う。
- ・今年度は、ある部会員の方は一度も参加できなかったが、業務が大変忙しいことは理解できるが、現場の生の声を聞けなかったことが残念だった。
- ・質問だが、このサポートファイルを作成するにあたり、3年前に周知の方法の話はでなかったのか。
- ・3年前は、発達支援の方に渡すという簡単な考えだった。しかし、実際に行ってみると、学校で渡しても活用してもらえないことがあり、幅広く説明や周知が必要と認識している状況だ。
- ・千葉市では、国の補助事業で認知症対策として、認知症初期集中支援チームを設置し、地域の方から連絡が入ると、看護師と社会福祉士、もしくは、看護師と作業療法士のチームが訪問を行なっている。しかし、3分の1は玄関で拒否されるが、残りの3分の2は面接ができており、何度か訪問することで、サービスの提供まで繋がることできている。障がい福祉もこのような形で訪問等できればいいと思う。
- ・民生委員は、説明するにしても玄関の中には入ってはいけないことになっている。近所の目もあり、サポートファイルの詳しい説明等は難しいと思う。

- ・鎌ヶ谷市の民生委員は、毎年高齢者支援課から依頼を受け、65歳以上の人に一斉に調査を行なっているが、ほぼ100%できており、鎌ヶ谷市の誇ることである。そのノウハウで、障害者のリストを提供していただければ、そのお宅へ訪問も可能だと思う。
- ・他部署になるが、行政が動いた方が良い案件があり、該当部署に連絡するも、腰が重く、実際に動いてくれたのか連絡がないため、行政からの依頼で行っていること（情報提供等）に意味があるのか不信感が募っている。協力している以上、結果もしくは経過の報告をしてほしい。

【来年度へ向けて】

- ・発達支援部会委員の任期も平成27年3月で満了となる。サポートファイルを作成して終わりではなく、周知方法や保護者へ使用を促すところまでしっかりと道筋を立ててほしい。
- ・サポートファイルの活用として、障害年金受給者に対する説明や、活用、相談、配付等の仕組み作り、周知のアイデアを考えていく。
- ・例えば民生委員の方への説明を行い周知する等の方法があるが、そのためには、相談場所の所在をはっきりさせる必要がある。
等の意見をいただいた。

来年度、新たなメンバーでの開催となり、来年度の検討テーマの参考となる旨事務局より説明した。

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成27年3月31日

氏名 吉田 浩滋

氏名 佐藤 佳子